

<特集 1 「PHYSOR2014」の報告>

## 炉物理国際会議 PHYSOR2014 に参加して

大阪大学大学院 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻  
博士前期課程二年 和田怜志

2014 年 9 月 28 日から 10 月 3 日の間にウェスティン都ホテル京都で開催された炉物理国際会議 PHYSOR2014 に参加する機会を頂いた。私にとって初の英語発表であり初の国際学会での発表であったため、英語フォーマットでの登録から発表資料の作成、原稿に至るまで事前準備では苦勞が絶えなかった。特に論文や発表スライドの作成、発表原稿については、共著者の方々の丁寧な修正や指導によって、なんとか用意することができた。

2013 年に京都大学原子炉実験所で行われた炉物理専門研究会にて、国内学生に対して一度目の期限内全員提出が言い渡されてから、一度目の期限には間に合わなかったものの私の稚拙な論文を共著者の方々の力添えによって修正し提出。査読をいただき修正を行い再提出。また、発表前には発表資料の作成や修正、練習に至るまで思い返せば長い道であった。始まってしまえば短いもので、1 週間の日程はすぐに過ぎて行った。

会議は、京都蹴上のウェスティン都ホテル京都で行われた。個人的には地元大阪から近すぎる京都で開催されることで、宿泊申請が下りず家から京都に通う毎日であり、国際学会に参加するという緊張感を直前まで感じるができなかった。しかし、学生手伝いの打合せのため初日に会場にはいり打合せ後に時間があつたので、核計算における不確かさについての Workshop を聴講することで会議のレベルの高さや会場の雰囲気を感じ、英語で発表を行うという実感を得ることができ、翌日の自分の発表に向け緊張感を高めることができた。

私の研究発表についてであるが、自身の発表セッション Reactor Analysis Method の会場である MIZUHO\_A が、私の発表が始まる前には満員となっており、初の国際学会発表でこの人達の前で発表するのかなと思うとかなり萎縮した。幸いにも発表そのものは、無事に行うことができた。しかし、質疑ではうまく質問者の意図を聞取れなかったり、意図を理解しても答えを英語で用意することができなかつたりと、自分の英語力があれば有意義なディスカッションができたのであるが残念である。

発表が終わってからは緊張から解放され、ほかの研究者の発表を聞くことができ自分の炉物理に関する知識が、如何に狭い範囲であるのかを知ることができた。特に学生手伝いのマイク係として会場に入っていたモンテカルロ法のセッションでは、幅の広い内容があり非常に興味深かった。ここでも自分の英語力と専門用語の知識がもっとあれば、発表内容をより深く理解することができたということが残念であった。この点に関して、今後の課題である。

また、名古屋大学の小出君によって Conference Banquet の裏で国際学生交流会が企画さ

れ、Conference Banquet に参加する学生も少なからず居た為、大規模な交流会とはならなかったが、皆と話をすることができる丁度良い交流会であった。近くは韓国、アメリカ、ベルギーの学生と交流を持つことができた。国際学生交流会では、研究の話やそれぞれの国の文化の話、食事が和食であったことから和食の話と、様々な内容を話すことができた。海外の学生は、非常に意識が高く、さらに語学が堪能であり、よい刺激を受けることができた。

最後に、今回、国際学会で発表する機会を与えてくださり準備に貴重な時間を割いてくださいました、研究室北田先生や共同研究先である原子燃料工業の竹田様に対して心から感謝いたします。また PHYSOR2014 にご尽力され、学生である私にこのような貴重な場で発表する機会を提供してくださいました日本原子力学会炉物理部会をはじめとする関係者の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。



写真 1 発表を行った MIZUHO\_A  
MIZUHO\_B と並んで最大の会場



写真 2 国際学生交流会(1次会)  
20人ほどの学生が集まった



写真 3 国際学生交流会(2次会)  
終電を逃しながらも・・・